

湯田温泉PARK
YUDA-ONSEN PARK

(仮称)湯田温泉パーク
(多世代交流・健康増進拠点施設)
基本設計【概要版】

令和 4年 3月 山口市

目 次	01 湯田温泉のまちづくりの方向性
	02 (仮称)湯田温泉パーク整備方針
	03 建築概要
	04 施設機能
	05 配置計画
	06 平面計画
	07 デザインコンセプト
	08 施設の特徴
	09 附帯設備
	10 ユニバーサルデザイン計画
	11 環境計画
	12 防災計画
	13 工程計画・整備スケジュール・概算事業費

住んでよし・訪れてよしの湯田温泉



※あくまで現時点でのイメージであり、
実施設計における詳細検討において変更となる可能性があります。

1. 本市の都市核づくり

本市では、第二次山口市総合計画における目指すべき将来都市像に「豊かな暮らし 交流と創造のまち 山口」を掲げ、その実現に向けた都市政策の柱に「広域県央中核都市づくり」と「個性と安心の21地域づくり」を位置づけています。また、目指すべき都市構造としては、山口・小郡の両都市核づくり、そして市内21の地域づくりにおいて、それぞれの特性や役割に応じた諸機能を維持・集積し、それらをネットワーク化する重層的コンパクトシティを目指すことで、農山村も都市も発展し、山口都市核も小郡都市核も発展するオール山口の発展としてのまちづくりを進めています。

この両都市核づくりのうち、小郡都市核では、新山口駅ターミナルパーク整備や産業交流拠点施設の整備・運営、山口都市核では、亀山周辺ゾーン及び中心商店街ゾーンにおける新本庁舎の整備や中心市街地の活性化、大内文化ゾーンにおける歴史文化資源の保存、

活用等によるゾーン全体の回遊性促進、情報・文化ゾーンにおける芸術文化の創造や次世代を担う子どもたちへの教育支援、湯田温泉ゾーンにおける観光地域づくりなどに取り組んでいます。

また、次世代を担う創造的な人材を生み出す場としての「山口情報芸術センター[YCAM]」や、産業人材や産業交流を生み出す場としての「山口市産業交流拠点施設」の取組を始めとして、本市の特性や地域資源を生かし、まちの価値を高める取組や、魅力的な都市空間の形成を進めています。こうした中、湯田温泉ゾーンにおいて、地域や世代を超えた交流を通じた新たなつながりを築き、市民の皆様の暮らしを豊かにするため、新たな交流創造の場として「(仮称)湯田温泉パーク」の整備を進めるとともに、周辺整備も含めた都市再生整備を進めます。

重層的コンパクトシティ

「農山村」も、「都市部」も発展
「山口都市核」も、「小郡都市核」も発展



山口市産業交流拠点施設



山口情報芸術センター[YCAM]



新本庁舎の整備 (R6竣工予定)



(仮称)湯田温泉パークの整備

2. 湯田温泉の観光地域づくり

～住んでよし・訪れてよしの湯田温泉～

本市では、「住んでよし・訪れてよしの湯田温泉」を本市の発展の方向性として位置付け、温泉を始めとする市民の暮らしに根づいた地域資源の磨き上げを行うことで、地域の歴史文化に対する市民の誇りを育み、市民と観光客の双方が魅力を感じる、県内随一の温泉地としての観光地域づくりを進めています。

目指す姿

住んでよし・訪れてよしの湯田温泉

方針

住んでよしの湯田温泉

～日本一住みたい温泉市街地～

都市機能が集まる市街地の中心に温泉が湧き出しているという全国でも特徴的な地域資源を活用し、湯田温泉を始めとする、本市に住んで良かった、住んでみたいと思っただけよう、市街地の魅力を高め、豊かな暮らしと交流、定住促進のまちづくりを進めています。

訪れてよしの湯田温泉

～県内随一の宿泊・保養拠点～

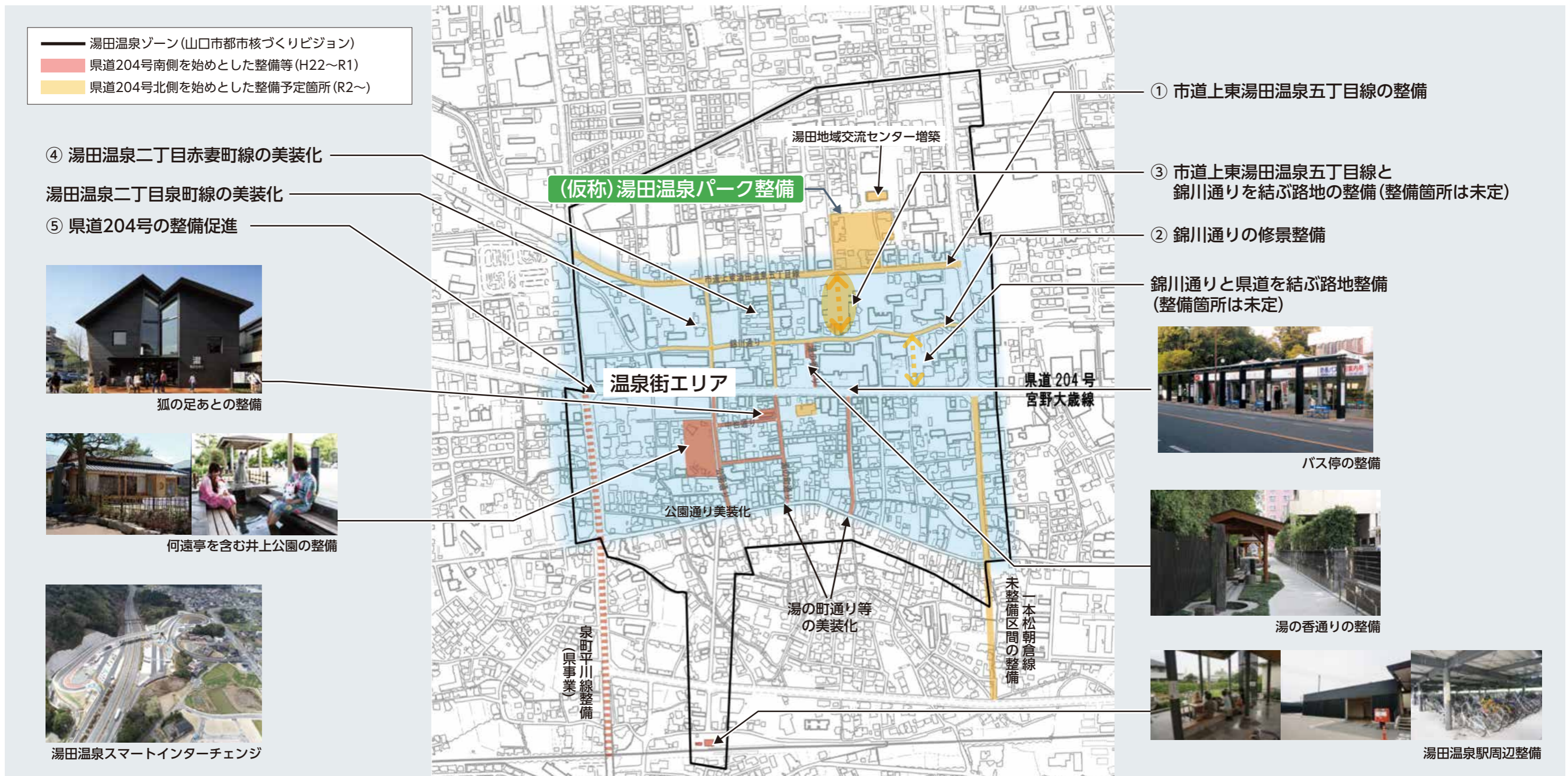
県内最大規模の宿泊・保養拠点である、湯田温泉の歴史や文化を生かした空間整備を行うことで、観光客が地域内を回遊し、地域住民とのふれあいを通じて、その地域に再び訪れたいと思っただけの観光地域づくりを進めています。

空間像

こうしたまちの実現に向け、日中や夜間も市民や観光客でにぎわい、市民が日常的に湯田温泉を訪れ、湯田温泉のある暮らしを楽しみ、市民同士や観光客との様々な交流を楽しむことができる公共空間をまちなかに形成し、地域や世代を超えたつながりを築き、生活を豊かにする、新たな交流の場を創出します。

3. 湯田温泉ゾーンの整備

湯田温泉ゾーンにおいては、拠点施設の整備や各通りの美装化などを通じたゾーン内の回遊性の向上及び歩行者の安全確保を進めています。
併せて、外周道路整備や湯田温泉スマートICなどの整備を通じた湯田温泉へのアクセス性の向上の取組も進めています。



01 湯田温泉のまちづくりの方向性



イメージ(検討中)

① 市道上東湯田温泉五丁目線の整備



イメージ(検討中)

② 錦川通りの修景整備



イメージ(検討中)

③ 市道上東湯田温泉五丁目線と錦川通りを結ぶ路地の整備 (整備箇所は未定)



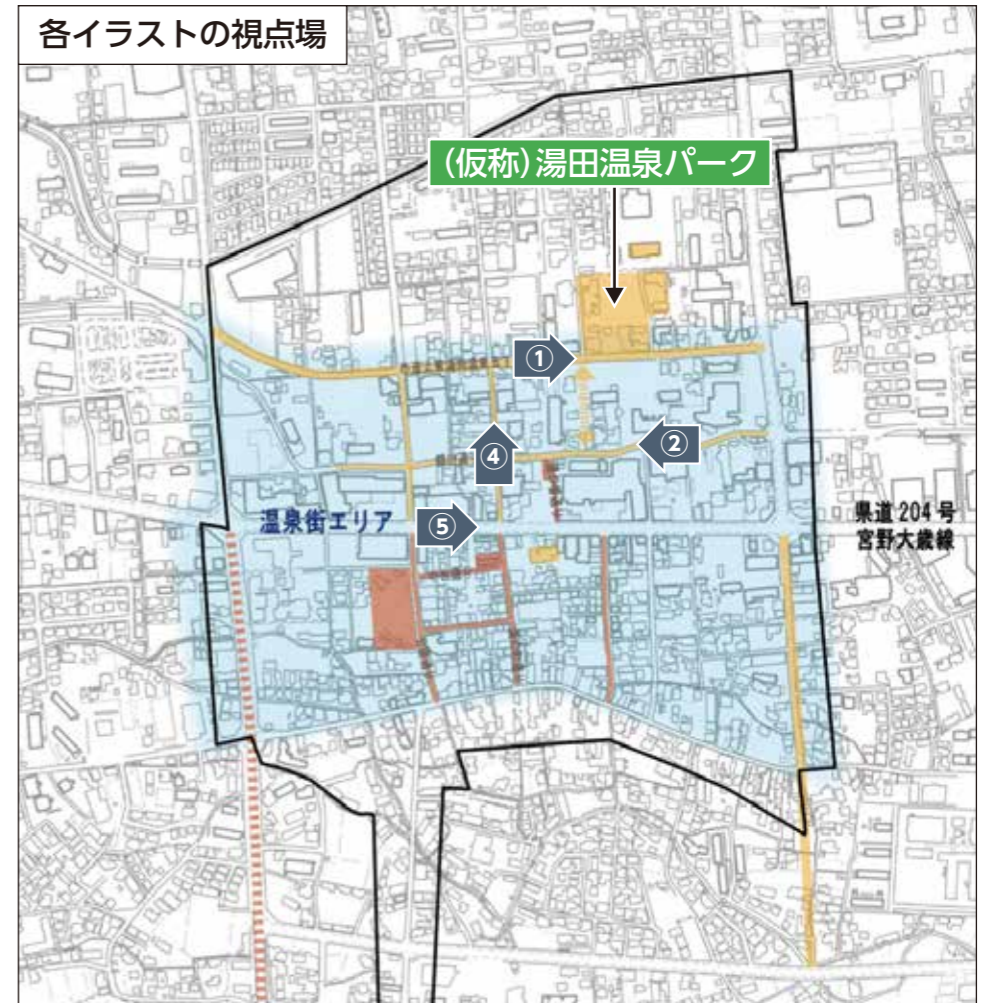
イメージ(検討中)

④ 湯田温泉二丁目赤妻町線の美装化



イメージ(検討中)

⑤ 県道204号の整備促進



湯田温泉の恵みと大屋根で広がる 豊かな暮らしの拠点



※あくまで現時点でのイメージであり、実施設計における詳細検討において変更となる可能性があります。

02 (仮称)湯田温泉パーク整備方針

本施設は、住んでよし・訪れてよしの湯田温泉の実現に向けた重点プロジェクトとして、都市型温泉という全国でも特徴的な地域資源を活用した定住実現の都市空間を形成することで、魅力的なまちづくりに資することを目指しています。

平成31年3月に策定した本施設の基本構想においては、本施設が目指す姿を、「温泉資源を活用した豊かな暮らしと交流の拠点」と位置付け、その後、令和2年10月に策定した基本計画の策定段階においては、湯田温泉を始めとした関係団体や関係者との協議を重ねつつ、市民アンケート調査や寿泉荘の利用者に対するアンケート調査、市民ワークショップ、

パブリック・コメントなどの様々な手法を通じて、幅広く市民や関係者の皆様の御意見などを伺い、現在、これまでいただいた御意見や御提案、全5回にわたる本施設整備専門会議における有識者の御助言などを踏まえ、施設の整備方針を整理しているところです。

こうした中、施設の特徴や活用コンセプトを踏まえ、本施設の特徴を市民の皆様に分かりやすく伝えるため、本施設の名称を「(仮称)湯田温泉パーク」としました。

なお、本施設の愛称を今後、市民や関係者の皆様のお声を伺いながら、検討します。

整備コンセプト

湯田温泉の恵みと 大屋根で広がる 豊かな暮らしの拠点

「湯田温泉の恵み」は、温泉資源を始め、県内有数の多くの飲食機能や都市機能が市街地に集積しているという全国でも特徴的な都市型温泉地を、「大屋根」は、本施設の最大の特徴である大屋根広場を表現しています。この湯田温泉の恵みと、本施設の大屋根のもとで広がる「豊かな暮らし」としては、美しい山並みに囲まれ自然と調和した県都での暮らしや、世代や地域を超えた新たな市民交流を始めとした暮らしの魅力を表現しています。また、本施設は、市民が日常的に訪れ、温泉の恵みや様々な交流を楽しむことができる拠点、温泉文化を醸成し、市民の湯田温泉に対する愛着を育む拠点、市民と観光客の交流を創出する観光地域づくりの拠点とすることを目指します。

整備の 特徴

- 市民が日常的に利用できる全天候型の大屋根広場を整備します。
- 大屋根広場とともに、温浴施設や温泉文化体験スペースなどの様々な機能をもつ複合施設とし、それぞれの機能が生み出す相乗効果により施設全体の利用を高め、さらには、まちへの新たな人の流れを生み出す複合施設として整備します。
- 地域イベントや観光イベント、湯田温泉の各団体等によるイベントの開催も可能となる施設として整備します。

活用コンセプト

あらゆる世代の市民や観光客が自由に利用し、心身の健康増進を図る

あそびば
～イキイキ遊ぶ～

まなびば
～ワクワク学ぶ～

たまりば
～ノビノビ過ごす～

あらゆる世代の市民や観光客が自由に利用し、心身の健康増進を図る場として、
3つの活用コンセプトを軸に、施設の設計を行います。

あそびば

～イキイキ遊ぶ～

子どもから高齢者までのあらゆる世代が、施設全体を使って、自由な発想でそれぞれの世代に応じた“あそび”を生み出し、“あそび”のある充実した暮らしを提供する場です。



まなびば

～ワクワク学ぶ～

あらゆる世代の生涯学習の場としての活用や、市民の好奇心をくすぐる新たな“まなび”を生み出し、“まなび”を通じて人生を豊かにする場です。



YCAM 提供 撮影：田邊アツシ



たまりば

～ノビノビ過ごす～

サードプレイス(※)として、市民が気軽に訪れ、自分の時間を過ごしたり、また、アフターコンベンションなどのイベント会場としての活用や市民同士や観光客との交流を図るなど、豊かな時間消費を楽しむ場です。

(※)サードプレイス 自宅や職場以外の過ごしやすい第三の場所



1.敷地概要

所在地	山口市湯田温泉五丁目
敷地面積	約8,090㎡
用途地域	商業地域
指定容積率	400%
指定建蔽率	80%
その他指定	準防火地域、駐車場整備地区
周辺道路	【南側】市道上東湯田温泉五丁目線 【西側】市道湯田温泉五丁目4号線 【東側】市道湯田温泉五丁目3号線
立地適正化計画	・都市機能誘導区域 ・敷地を含む湯田温泉ゾーンにおいて、「温泉を活用した健康増進・保養施設」及び「料飲店」を集積すべき施設として位置づけ
その他	泉源(市有特1号、湯田温泉18号、湯田温泉21号)



湯田温泉白狐まつり



井上公園 足湯



飲食施設



宿泊施設

2.建物概要

延床面積	約3,000㎡
階数	地上2階
構造	鉄骨造 一部 鉄筋コンクリート造
建物高さ	約15m
駐車台数	平面駐車場約55台(うち屋根付き車いす使用者用駐車場 2台)

3.周辺状況



4. 外観イメージ



※あくまで現時点でのイメージであり、実施設計における詳細検討において変更となる可能性があります。

1. 施設機能等

(1) 交流機能 約2,290㎡

- 大屋根広場を施設の中央に配置し、全天候型の市民や観光客の交流が可能な空間とします。
- 建物構造や設備等により、大屋根広場を屋内化可能な空間とすることで、多様な施設活用を可能とし、風雨、暑さ寒さの影響を受けにくい、防音性、耐震性のある、避難所利用も可能な空間とします。
- 2階へつながる大階段を大屋根広場に面して設け、1・2階の利用連携が図れる構成とします。
- 多目的スペースや温泉文化体験スペースを大屋根広場に面して開放させることで、一体的な利用が可能な空間とします。
- 多目的室は、他の交流機能等と連携が可能なスペースとします。
- 温泉文化体験スペースは、展示・体験空間として、飲食機能と連続して、気軽に立ち寄れるオープンな空間とします。

(2) 温浴・健康機能 約560㎡

- 60歳以上を対象とする山口市老人憩いの家「寿泉荘」を、あらゆる世代が利用できる温浴機能として建替更新します。
- 湯田温泉の歴史や文化、泉質の特性など、利用者が温泉文化を身近に感じられる空間として整備します。
- 2つの浴室を異なる造りとし、男湯・女湯を入れ替えて運用することを想定しています。
- 貸切風呂を設け、バリアフリーの浴槽を設置します。
- 浴室等の温浴機能は交流機能とは切り離れた位置とします。周囲には足湯や目隠しフェンス等を整備します。
- 休憩室は交流機能と繋ぐ空間として大屋根広場に面して設け、温浴機能の雰囲気を滲み出させる工夫を施します。
- 利用料金は原則500円とし、子どもは無料とします。加えて、高齢者等の外出促進(例:70歳以上の入浴割引)や湯田温泉全体の温浴施設の利用促進につながるような企画事業を行います。

(3) 飲食機能 約150㎡

- 本施設の利用者の快適性と利便性を高めるカフェ機能として整備します。
- 山口の食文化をPRしつつ、湯田温泉全体の飲食需要が高まり、周辺の飲食店に波及効果を生み出すような機能を整備します。

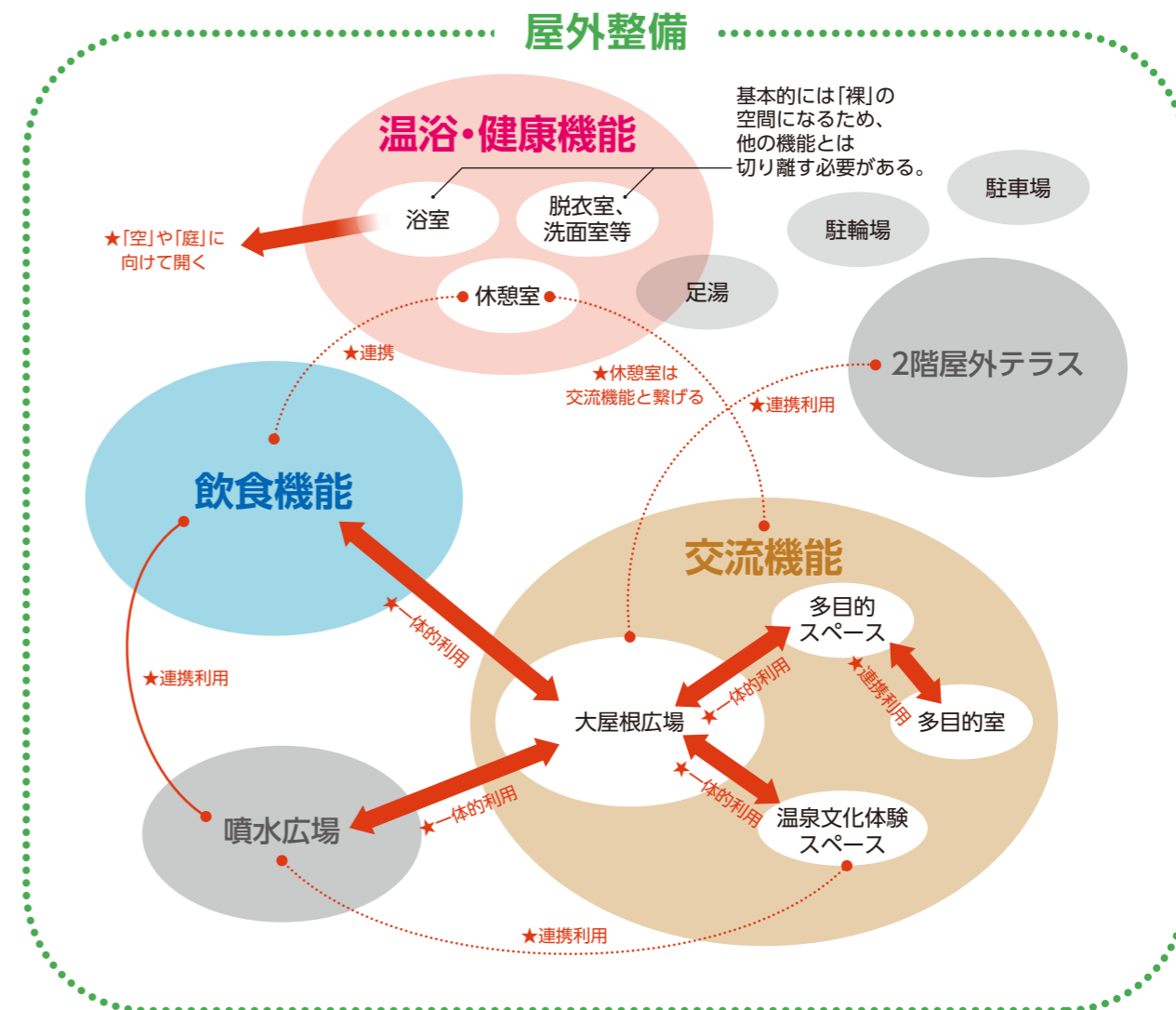
(4) 屋外整備

- 前面道路側には噴水広場、キッチンカースペースを、また、地域交流センター側には緑地を設けるなど、外周部にも賑わいを創出します。
- 大規模イベント開催時には、大人数に対応できるよう飲食やトイレ機能が拡張できる設計とします。
- 2階には屋外テラスを設け、施設全体で立体的な回遊を創出します。各所にアクティビティを創出する仕掛け(オープンキッチン、アートウォール、遊具、植栽帯など)を設けて、多様な活動が行える空間とします。
- 駐車場と駐輪場を整備し、シェアリング機能を導入できるような構成とします。

(5) その他

- 各機能に付随してエントランスや総合案内所、事務室、共用部分を適切に配置します。
- 子どもや車いすの方を始め誰もが利用しやすい給水機を配置します。

2. 機能間の関係性



3. 面積配分

交流機能		温浴・健康機能		飲食機能	
大屋根広場	約 1,000㎡	浴室	約 300㎡	施設	約 100㎡
多目的スペース	約 200㎡	休憩室	約 30㎡	その他	約 50㎡
多目的室	約 100㎡	その他	約 230㎡		
温泉文化体験スペース	約 200㎡				
その他	約 790㎡				
小計	約 2,290㎡	小計	約 560㎡	小計	約 150㎡
				合計	約3,000㎡

1.前提となる条件

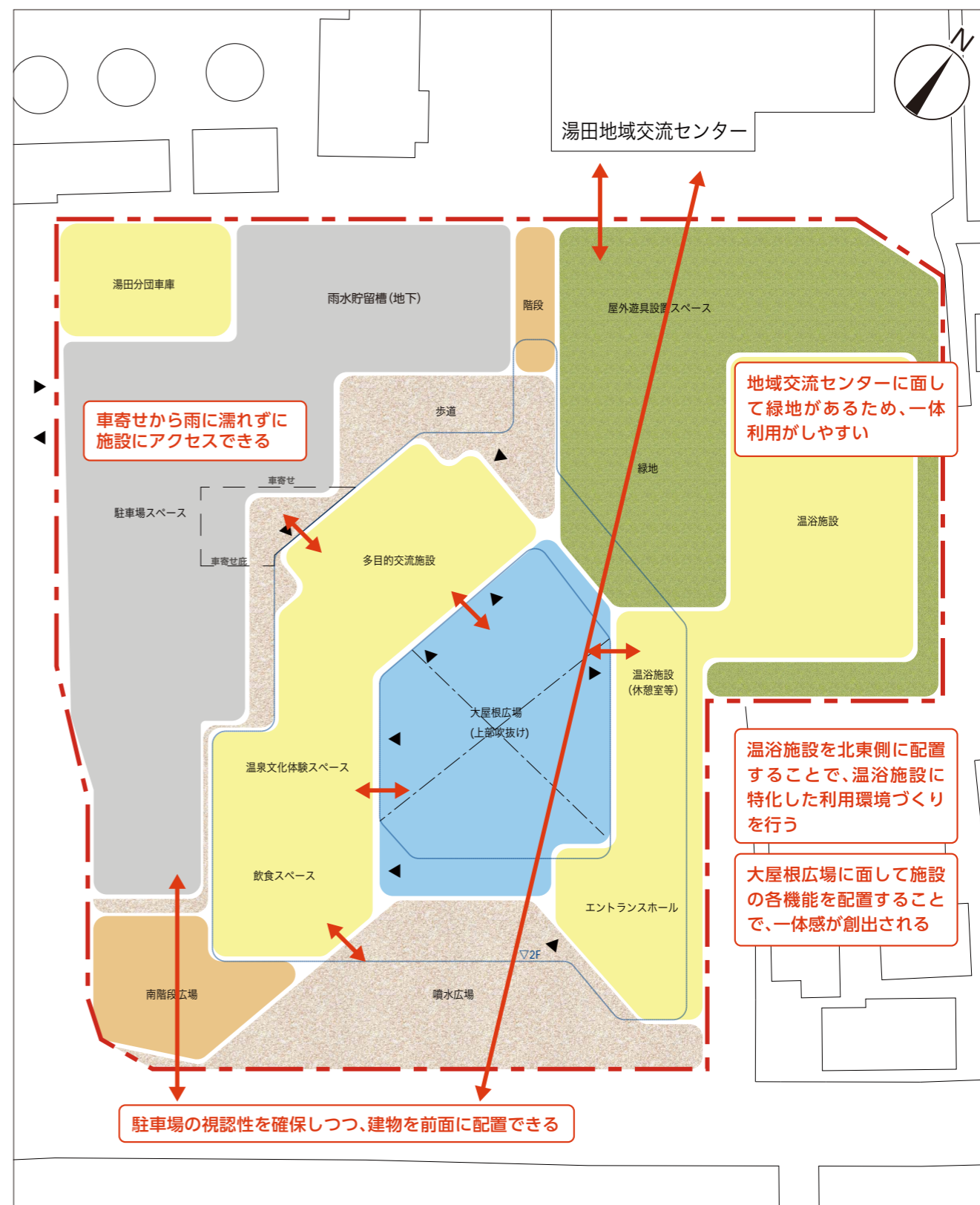
- (1) 法令上の条件
 - 用途地域は商業地域に指定しており、建蔽率は80%、容積率は400%に指定。
 - 景観条例で、一般地域に指定。
 - 駐車場整備地区に指定しており、施設規模に応じた駐車台数の確保が必要。
- (2) 施設の特性による条件
 - 全天候型の大屋根広場を設けます。
 - 交流機能、温浴・健康機能、飲食機能等を含む複合施設とします。
 - 敷地内にある寿泉荘や消防分団車庫は利用を継続しながら、建替えを行う必要があります。
- (3) 敷地の特性による条件
 - 敷地内の3箇所に温泉の泉源が存在します。
 - 北側に湯田地域交流センターがあり、アクセス性や連携のしやすさに配慮する必要があります。
 - 市街地における一定の防音対策等に配慮する必要があります。
 - 周辺交通へ配慮し、駐車場へのアクセスは西側道路から行う計画とします。併せて、西側道路の拡幅を検討します。
 - 浸水対策のため、敷地内に雨水貯留槽の設置を検討します。

2.建物の配置

建物を雁行して配置し、噴水広場・大屋根広場・緑地をずらしながら配置し、前面道路から本施設の中を通過して地域交流センターへと導く構成とします。

- 機能を細かく分散して配置することで、敷地全体に多様な雰囲気的空間をつくりやすい。
- 建物を雁行配置とすることで、奥の空間が見え隠れしながら、自然と奥へ誘われるような空間をつくり出すことができる。
- 全ての機能が大屋根広場に面しているため、大屋根広場との一体感を創出しやすい。
- 噴水広場と飲食機能が前面道路に面しているため、賑わいを創出しやすい。
- 駐車場を敷地西側に配置することで、駐車場の視認性を確保しつつ、建物を前面に配置できる。
- 温浴機能を敷地北東側に配置することで、周辺に緑地などを配置した雰囲気をつくりやすく、また、大屋根広場でのイベント時にも、温浴施設の利用をしやすい。
- 地域交流センターに面して緑地があるため、一体利用が可能なたままとった空間をつくりやすい。
- 車寄せに庇(屋根)を設けることで、雨に濡れずに施設にアクセスできる。

配置計画



1. 1階平面図 (S=1/500)



POINT プランニングのポイント

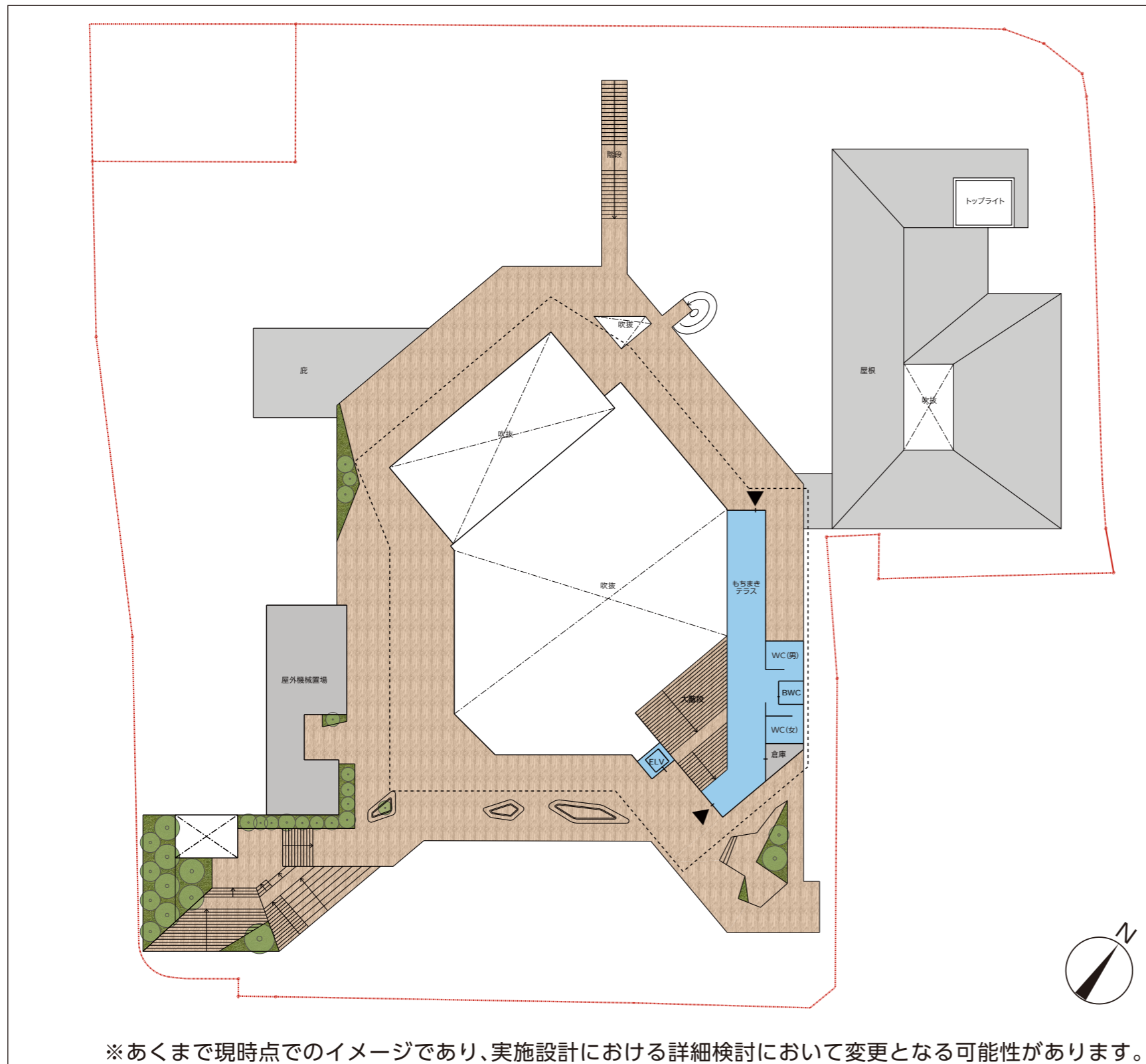
施設中央の大屋根広場に求心性を持たせ、広場を取り囲むように様々な活用ができる空間を設けることで、賑わいを生み出しやすくします。

多目的スペースの壁面の角度を北側へ振ることで、前面の噴水や中央の大屋根広場から地域交流センターへと導く軸線をより強調します。

バリアフリーや使い勝手に配慮したトイレ(バリアフリートイレや子どもトイレを含む)や授乳室を設けます。

駐車場から建物へのアクセス性にも配慮し、建物入口を複数箇所に設けます。

2. 2階平面図 (S=1/500)



※あくまで現時点でのイメージであり、実施設計における詳細検討において変更となる可能性があります。

POINT プランニングのポイント

- 屋外テラスを全面的に設けて、建物全体を回遊できる計画とします。
- 前面道路や地域交流センター側から直接2階へアクセスできる階段を設けて、2階レベルでも周辺地域と連続する計画とします。
- 大屋根広場に面した大階段を設けることで、2階と1階を繋げると同時に、座れるような場所を設置することで、イベント時等にも活用できる空間とします。
- 大屋根広場を見下ろすテラス空間を設けて、イベント時等に立体的な活用ができるスペースとします。

○ 施設コンセプト ○

あそびば

～イキイキ遊ぶ～

子どもから高齢者までのあらゆる世代が、施設全体を使って、自由な発想でそれぞれの世代に応じた“あそび”を生み出し、“あそび”のある充実した暮らしを提供する場

(仮称)湯田温泉パーク

まなびば

～ワクワク学ぶ～

あらゆる世代の生涯学習の場としての活用や、市民の好奇心をくすぐる新たな“まなび”を生み出し、“まなび”を通じて人生を豊かにする場

たまりば

～ノビノビ過ごす～

市民のサードプレイスとして、気軽に訪れ、自らの時間を過ごしたり、また、アフターコンベンションなどのイベント会場としての活用や、市民同士や観光客との交流を図るなど、豊かな時間消費を楽しむ場

○ 「湯田モダン」のデザインスタイル ○

湯田温泉においては、近代化と共に失われつつあった温泉情緒を蘇らせるため、観光地としての賑わいだけでなく、都市的な賑わいや豊かな自然も併せ持つ湯田温泉ならではの環境をイメージし、素材や形状において昔ながらのものと現代的なものを組み合わせ、職人の技と最新の技術を組み合わせ「湯田モダン」というデザインスタイルを展開してきました。



次世代へ発展的に引き継ぐ「湯田モダン」

"ココロオドル"

「伝統と革新」「職人技と現代技術」を融合させた「湯田モダン」のデザインスタイルを更に発展させ、「イキイキ・ワクワク・ノビノビ」を感じさせるような躍動感のあるデザインで、健康で活気あふれるまちの新たな拠点をつくります。

健康で活気あふれるまちの新たなシンボルとするため、心躍るような「躍動感」を感じさせるデザインとします。

周囲を取り囲む山並みの大らかな形状を意識しながら、多角・多面といった形状を導入することで、建物形状にも動きが生まれ、賑わいの雰囲気を増幅します。

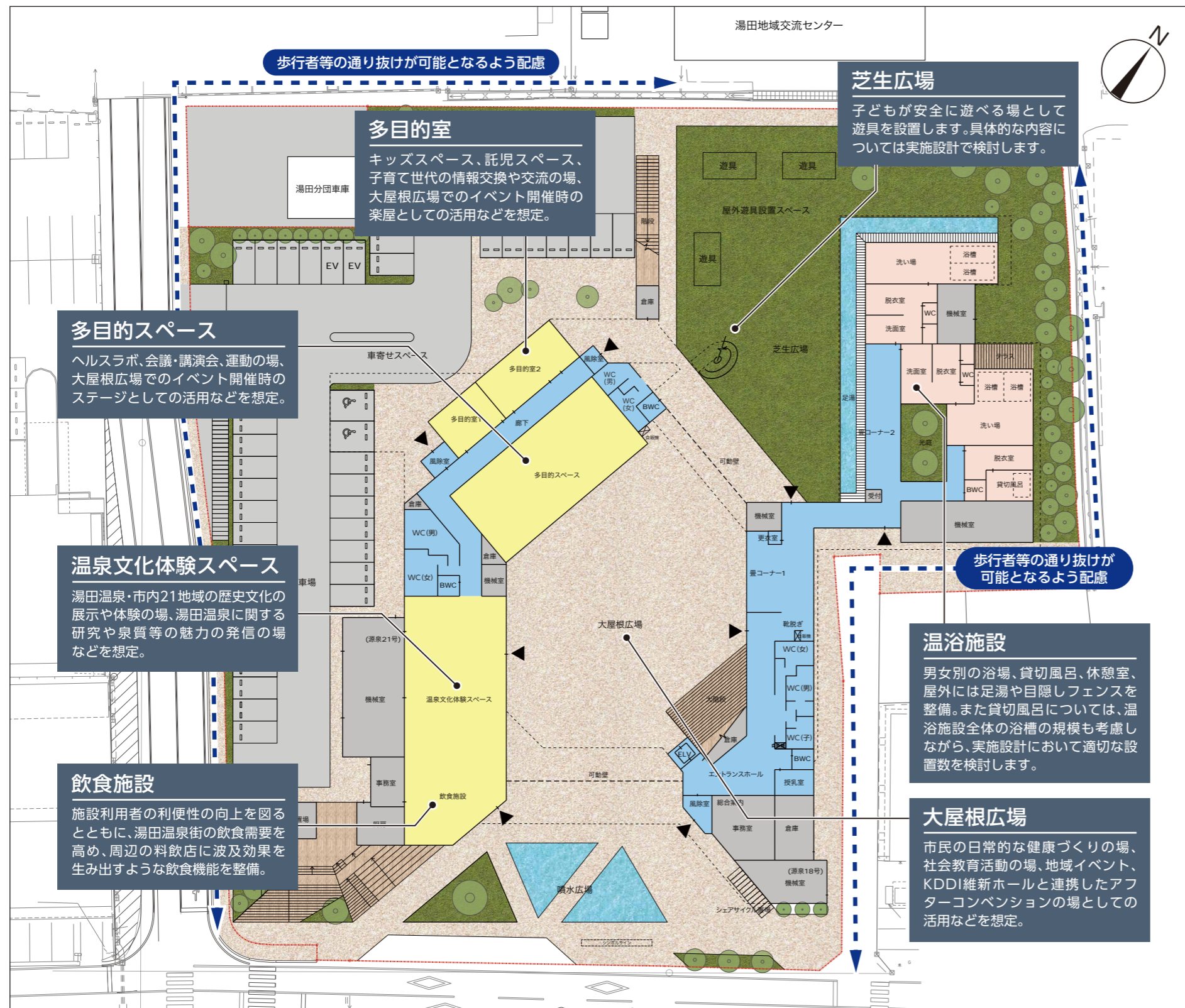
心身の健康につながるような、植物や自然素材をなるべく多く使用することで、健康的で心地よい雰囲気をつくりだします。

内部空間では、アクセントとなるような鮮やかな色彩や質感をもった素材も部分的に使用することで、元気で活発な雰囲気を演出します。



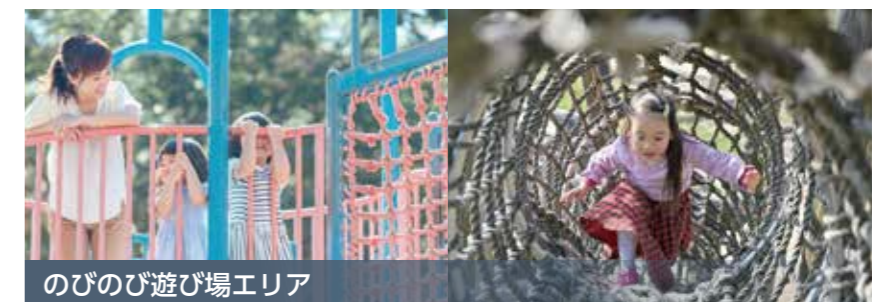
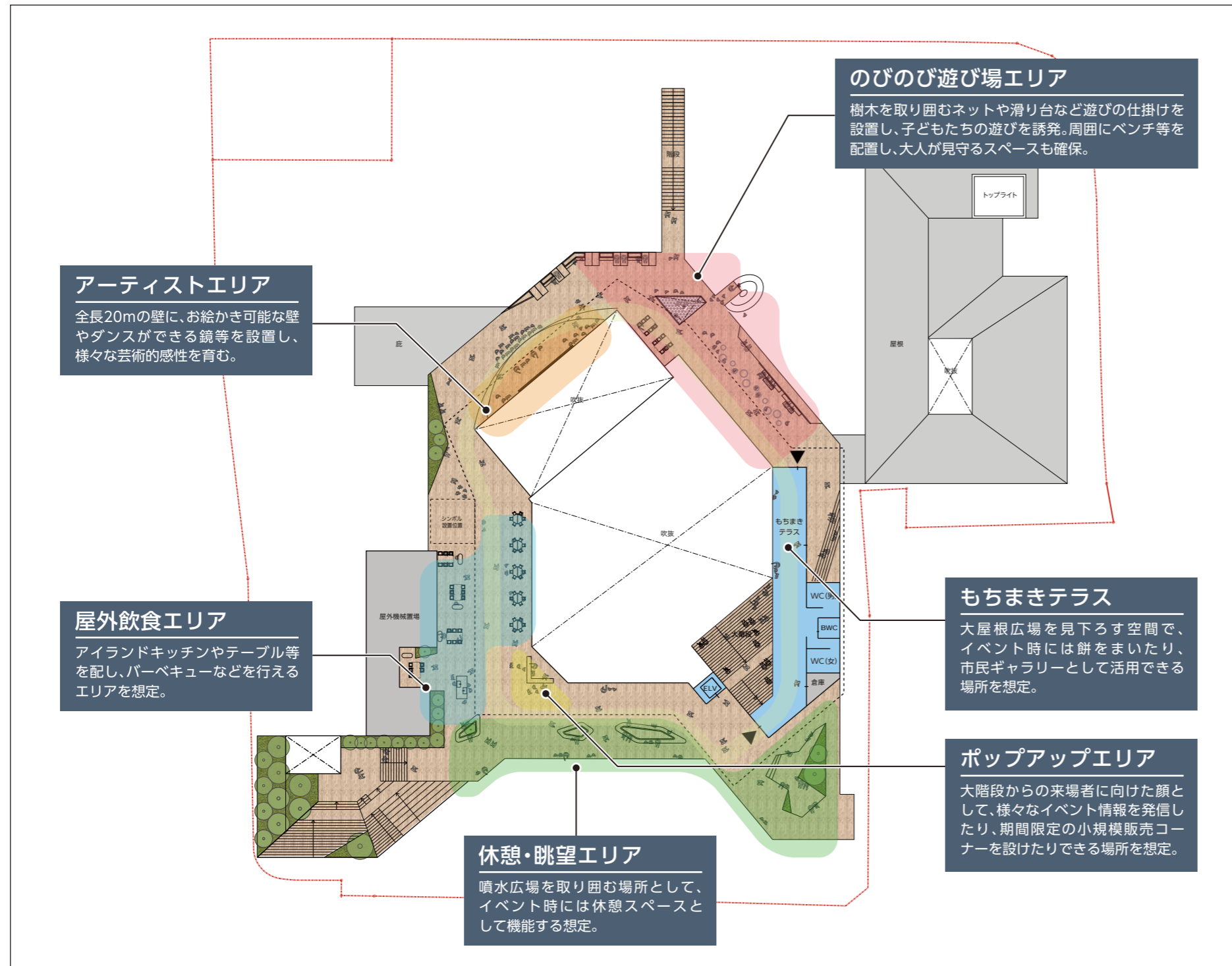
コンセプトイメージ

1. 1階の機能



2. 2階の機能

建物全体を公園のような空間にするため、大屋根広場を取り囲む建物の屋根を全面的にデッキスペースとし、各所にアクティビティを創出する仕掛け（オープンキッチン、アートウォール、遊具、植栽帯など）を設けて、多様な活動が行える空間として設えます。



3.大屋根広場

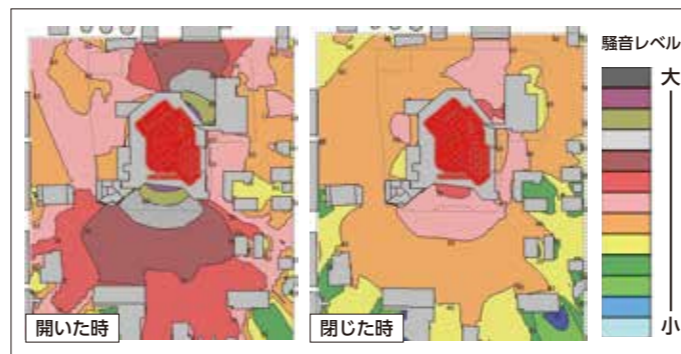
(1) 概要

- 雨天時においても多様なアクティビティを実施できる、全天候型の大屋根広場を設けます。
- 大屋根の形状は、周辺の山並みと調和したシンボリックなデザインとします。
- 内部は市内産材等を活用しつつ、木質感の感じられる空間とします。
- 日中は、湯田地域交流センターへの動線、エントランスとしての機能も果たします。



(2) 室内空間化が可能

- 屋内化が可能な建物構造とします。
- 設備として、前面道路側と地域交流センター側の開放部に可動壁を設置します。併せて、空調設備を設けることで、可動壁を閉めた際にも、大屋根広場の多様な利用が可能となります。
- これらの対応により、災害時の避難場所としての利用が可能となり、大屋根の吹き上げ対策も図られます。



可動壁による防音効果のシミュレーション
(和太鼓を演奏した場合の高さ1.5mの地点の音レベル)

(3) 大型ディスプレイ

- 大屋根広場には、パブリックビューイング等で使用できる大型のディスプレイを設置します。
- 通常時には市政情報やイベント情報等を告知するサイネージとしても活用できます。

(4) 多目的スペースとの一体的利用

- 多目的スペースと大屋根広場の間の間仕切りを開放することで、大屋根広場と一体的に活用することができます。
- 大屋根広場との一体利用により、1,000人規模のイベントも行うことができます。



4.活用イメージの例



学びにつながる遊具の設置



地域のお祭りの場としての活用



夏休みなどに子どもが楽しめる場としての活用(例:迷路、お化け屋敷)





大屋根広場と多目的スペースを一体的に活用して、季節のイベントを行うイメージ



大型ディスプレイを活用してパブリックビューイングを行うイメージ



多目的スペースを使用したヘルスラボや大屋根広場での健康づくりのイメージ



大屋根広場に面した大階段を使ってパフォーマンスなどを行うイメージ



大屋根広場を使ってマルシェ等のイベントを行うイメージ(もちまきテラスから見下ろす)



多目的スペースをステージとし、大屋根広場でアフターコンベンション等を開催するイメージ

5.施設運営に向けた仕掛けづくり

基本計画における施設目標である施設利用者数年間10万人の実現に向け、多様な企業等との連携の仕掛けづくりや、日常利用の仕掛けづくりを行います。

(1)地域団体、民間企業等との連携の仕掛けづくり

本施設で多様なイベントや講座を開催するために、地域や民間企業等と連携ができるノウハウを持っているといったことなどを重視し、指定管理者を選定します。

(2)日常(市民)利用の仕掛けづくり

子どもを始め市民が日常的に施設を利用できるよう、市主催事業の開催や、地域おこし協力隊などの外部人材の活力を生かした事業展開等を検討します。また、市民が施設づくりに参画する仕掛けについても検討します。

市民参加の例



(1) 検討時におけるワークショップの開催

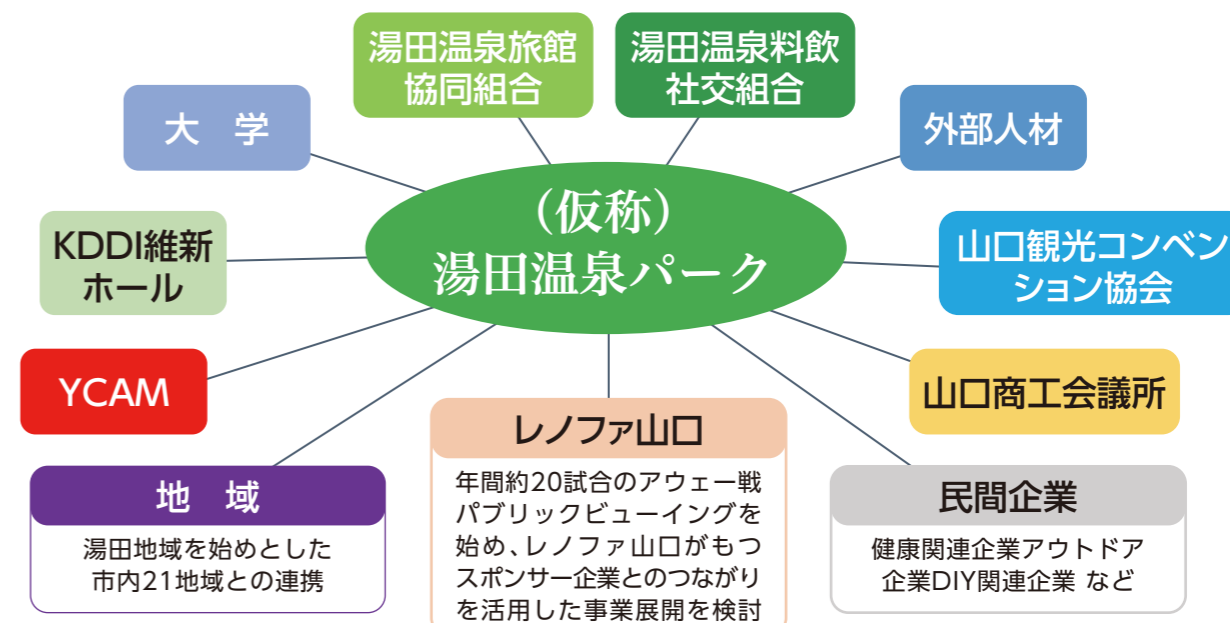


(2) 施工時における共同作業 (例:モニュメントづくり)



(3) 運用開始時における施設の名前募集

図1 連携の仕掛けづくりイメージ



併せて、遊具や噴水の設置、気軽に腰掛けられるスペースや5G、フリーWifiの整備など、市民や観光客が何気なく立ち寄り、自由に過ごすことができる設備の整備も検討します。また、こうした市民利用や多様なイベントの開催が可能となる企画事業費を含む施設運営費については、実施設計と並行して引き続き検討します。

表1
基本計画における施設目標

成果指標	目標
施設利用者数(年間)	100,000人
湯田温泉を利用した市民の割合(山口市まちづくりアンケート:1年間に市内の温泉を利用した市民の割合)	向上
[参考指標]湯田地域等の定住人口	増加

参考:(仮称)湯田温泉パークの整備等がもたらす経済波及効果の検証

一般財団法人山口経済研究所の協力のもと、本施設整備が湯田地域を中心とした地域経済全体にもたらす経済波及効果を算出しました。

本施設整備により、年間約13億円(①+②)の経済波及効果が見込まれます。加えて、住宅建設により、約11億円(③+④+⑤)の経済波及効果が見込まれます。

施設利用者による経済波及効果

施設の年間利用者数10万人
(現状の寿泉荘利用者数約2万5千人から7万5千人増加)とした場合
12億4,800万円 ①

+

住宅建設等による経済波及効果

- 定住人口が年間110人増加した場合 6,100万円/年間(110人毎に) ②
- 鉄筋コンクリート造マンション1棟(30戸)が建設された場合 8億3,100万円 ③
- 鉄骨造のアパート1棟(20戸)が建設された場合 2億7,800万円 ④
- 木造の戸建て住宅1棟が建設された場合 2,800万円 ⑤

1.スマートシティの推進

デジタルサイネージやスマートロックなどを活用した施設運営を行うとともに、5GやICT等のデジタル技術の活用や、YCAMなどの周辺の公共施設との連携など、デジタル社会に対応した施設活用を行います。

案内

交通

運営

遊び・学び

デジタルサイネージ

表示内容が変更可能なタッチパネル式の液晶ディスプレイを設置し、あらゆる利用者に分かりやすい情報発信を可能に。



視覚や聴覚障がいのある方にも対応

QRコードによる多言語対応

日本語が苦手な外国人に向け、多言語での説明が示されるQRコードを設置。



非接触操作エレベーター

感染症対策につながる非接触操作可能なエレベーターの設置。

カーシェアリング・シェアサイクル

アプリを利用し、いつでも誰でも使用可能なカーレンタルやシェアサイクル等のブースを設置。



MaaSアプリ・乗り合いタクシー

新山口駅の産業交流拠点施設の利用者がシームレスに(仮称)湯田温泉パークまで移動できる仕組みづくり。



バスベイ

観光バスや社会科見学のバスが2台程度停車可能なバスベイを整備。

デジタルチケット・スマートロックなど

- 市民が気軽に利用できる電子決済機能を含むWEB施設予約システム等の構築。
- 貸館スペースへのスマートロックの導入など、施設内での人との接触回数の低減や施設利用者の利便性の向上につながる取組の実施。
- 顔認証システムやGPSデータを施設運営に活用。



5Gを使用した高速通信環境 ICT等のデジタル技術 VR/ARコンテンツの提供 など

- YCAM等と連携した取組の実施。
- 山口市産業交流拠点施設のメディフィットラボと連携した、湯田温泉に暮らす人の健康づくりにつながる社会実証システムを構築。
- 子どもから大人まであらゆる世代の市民が、高速通信環境を利用した学びや、VR等を活用した体験を楽しめる場等として活用。



YCAM 提供 撮影：古屋和臣

ミーティング・ワーケーション

職住融合の新しい働き方への対応や、ビジネスマンの湯田温泉への来訪機会の増加に向け、地元企業や経済団体等のリモート会議やミーティング等の場として、また、ビジネスマンのワーケーションや出張時等に利用できる場等としての活用。



大型ディスプレイ

大屋根広場に大型ディスプレイを設置し、災害などの非常時において視覚的にも状況を認識できるような活用を図る。



デジタルアート

スマートフォンの操作と連動し、噴水の高さや色の調節が可能な仕掛けや大階段のプロジェクションマッピングなど。



※あくまで現時点でのイメージであり、実施設計における詳細検討において変更となる可能性があります。

1. 基本的な考え方

- 障害者、外国人を始めとしたあらゆる世代の方や、誰もが使いやすいユニバーサルデザインを実現します。
- 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(バリアフリー法)」及び「山口県福祉のまちづくり条例」に基づく整備とします。
- 基本設計、実施設計、施工の段階において、山口市ユニバーサルデザイン推進検討会を開催します。

2. 方策

(1) 動線計画

- 大屋根広場を中心に据えたシンプルな平面計画により、分かりやすい動線計画を実現します。
- 駐車場からも前面道路からも温浴施設へアクセスしやすい動線計画とします。
- 駐車場には、庇を張り出した車寄せを設けて、雨に濡れずに施設にアクセスできる計画とします。
- 車いす利用者用駐車場の上部に屋根を設け、雨に濡れずに施設にアクセスできる計画とします。
- 車いすやベビーカーが移動しやすいよう、ゆとりある通路幅を確保します。

(2) トイレ等

- バリアフリートイレを施設内に複数箇所配置します。また、右勝手・左勝手への配慮や、ユニバーサルシート機能の導入など、様々な方が利用しやすいトイレとします。
- 総合案内付近には、子育てに優しい設備として、授乳室や子ども用トイレも設置します。
- 一般トイレにオストメイト対応トイレを設置します。

(3) 温浴施設

- 貸切風呂には昇降式の浴槽を設けて、車いす利用者も気兼ねなく温浴を楽しめる施設とします。
- 男女の浴場は、子どもや高齢者が安心して入浴できるよう、一定程度の広さを確保します。

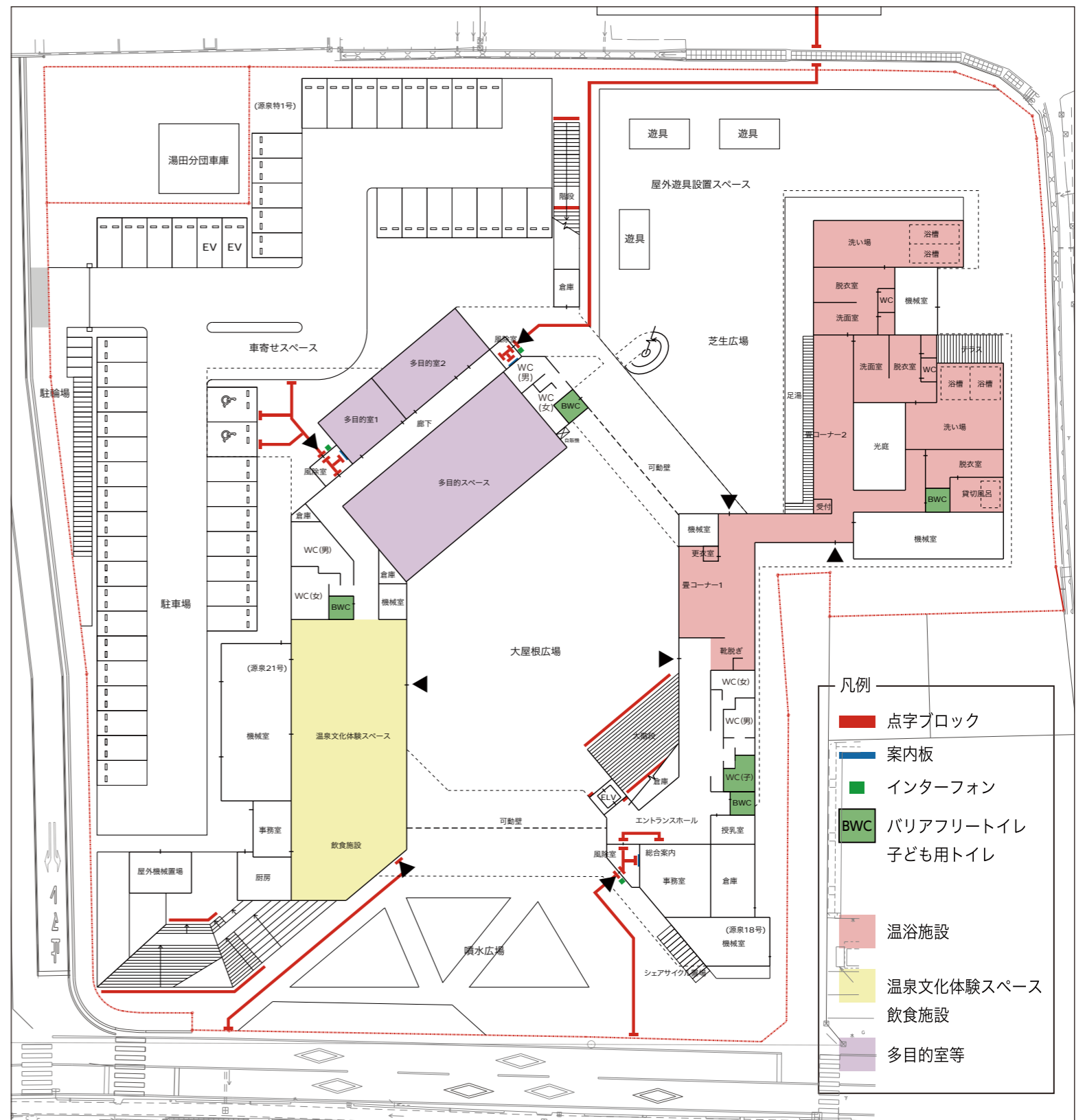
(4) サイン計画

- サインにより各部屋の位置を明確化します。QRコード等によるスマート対応により、多言語等にも対応します。
- ディスプレイ等を活用し、災害などの非常時において視覚的にも認識できる設備を設置します。

(5) 舗装材

- 舗装材やデッキ材には安全な床材を選定します。

(6) 点字ブロック等(1/400)



1. 基本的な考え方

- 環境配慮型の建物として、省エネ設備の採用、高断熱、日射遮蔽等の空調負荷抑制、再生可能エネルギーの活用を図ります。

2. 通風

- 大屋根広場の空間特性（高天井）を生かし、建物を効率よく風が通る計画とします。
- 風の流れをシミュレーションにより検証し、屋根頂部への窓設置など最適な窓配置とします。

3. 市内産材等の活用

- 市内産材等を活用して、建物の本質化等を行います。

4. 再生可能エネルギーの活用

- 本施設の象徴となる大屋根と調和する形状で、太陽光発電パネルを設置し、発電した電力を施設内で活用します。太陽光発電設備の設置については、施設運営費や反射公害のシミュレーションなども行いながら、実施設計において、引き続き検討します。
- 敷地内に存在する湯田温泉の既設泉源を利用し、高温の泉源から熱を取り出し建物内で活用することで、温浴設備や暖房設備の消費エネルギーを大幅に削減します。

5. カーボンニュートラルへの取組

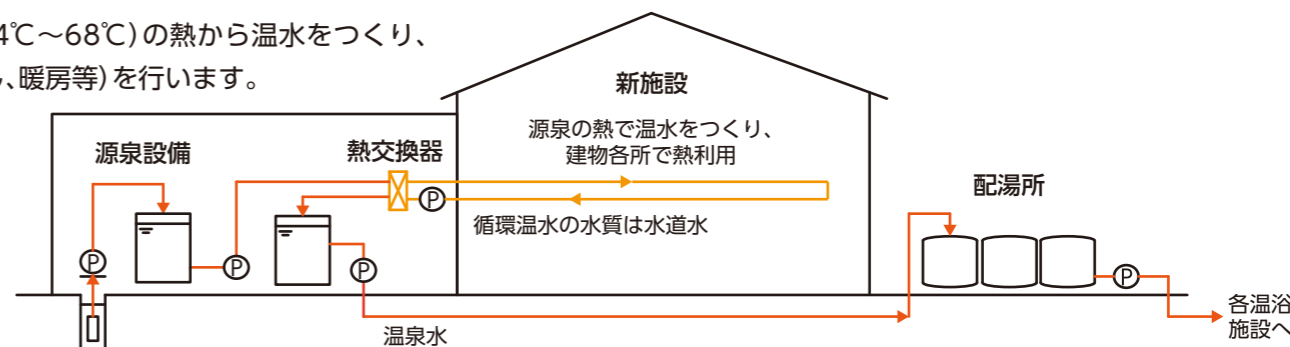
- 地域脱炭素につながる取組として、一次エネルギー消費量の削減などに取り組みます。

6. SDGsへの取組

- SDGs（持続可能な開発目標）に掲げられた目標への貢献を最大化する施設づくりを行います。

新施設建設後のシステム

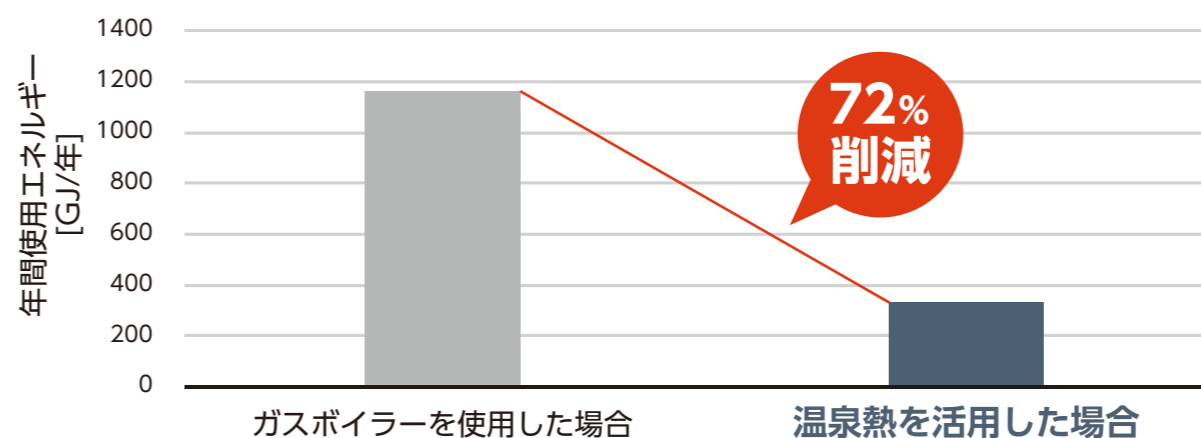
源泉設備を一部改修し、源泉（74℃～68℃）の熱から温水をつくり、新施設の各所で熱利用（湯沸かし、暖房等）を行います。
熱回収した源泉は現状とおり配湯所へ送ります。



温泉熱利用技術

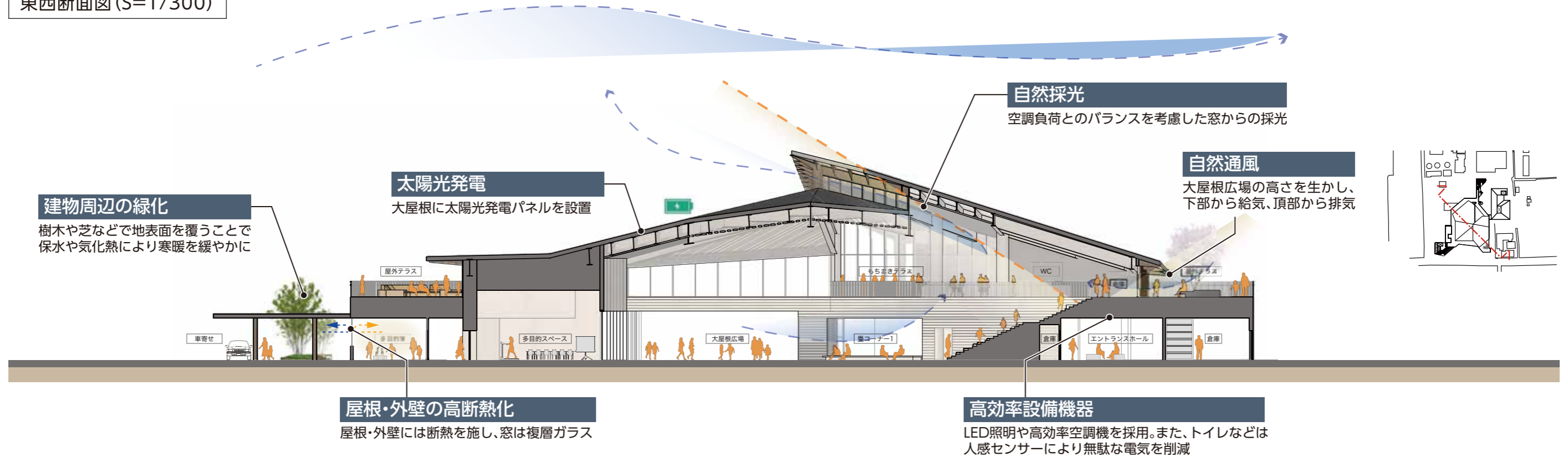
熱利用項目	床暖房(大屋根広場)	給湯	浴槽昇温	床暖房(屋内)
設備イメージ				
概要	大屋根広場の床面を暖めて、冬期イベント時の快適性を高める。	シャワー・カランの給湯用貯湯槽に熱供給する。	ろ過循環の過程で熱供給し浴槽(温泉)を昇温・温度維持する。	夜間の源泉熱を活用、コンクリートの蓄熱性により床面・座面等を暖める。

温泉熱利用による、温浴設備、空調設備の年間エネルギー量削減イメージ

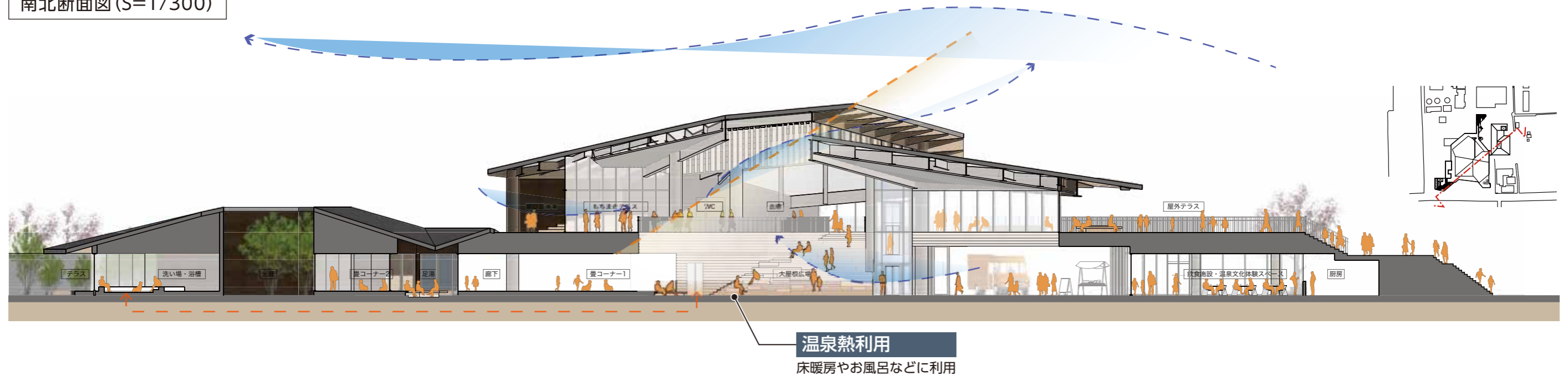


7. 断面計画

東西断面図 (S=1/300)



南北断面図 (S=1/300)



1. 基本的な考え方

- 「山口市地域防災計画」等との整合性を図り、災害時には、湯田地域交流センターや山口勤労者総合福祉センター「サンフレッシュ山口」といった周辺公共施設と連携し、市民や来街者の安全確保を図ります。
- 指定避難所としての活用を想定し、避難所となるスペースのライフライン(電気・給排水)自立化対策、地震後にも建物を継続使用できる高い耐震化を図ります。

2. 電源確保

- 非常用発電機を設置し、消火・避難用設備の電源を確保するとともに、給水ポンプ、照明、空調換気設備に送電可能とすることで、災害時の建物の機能維持を図ります。
- 太陽光発電による電力も停電時の電力として利用します。

3. 給排水確保

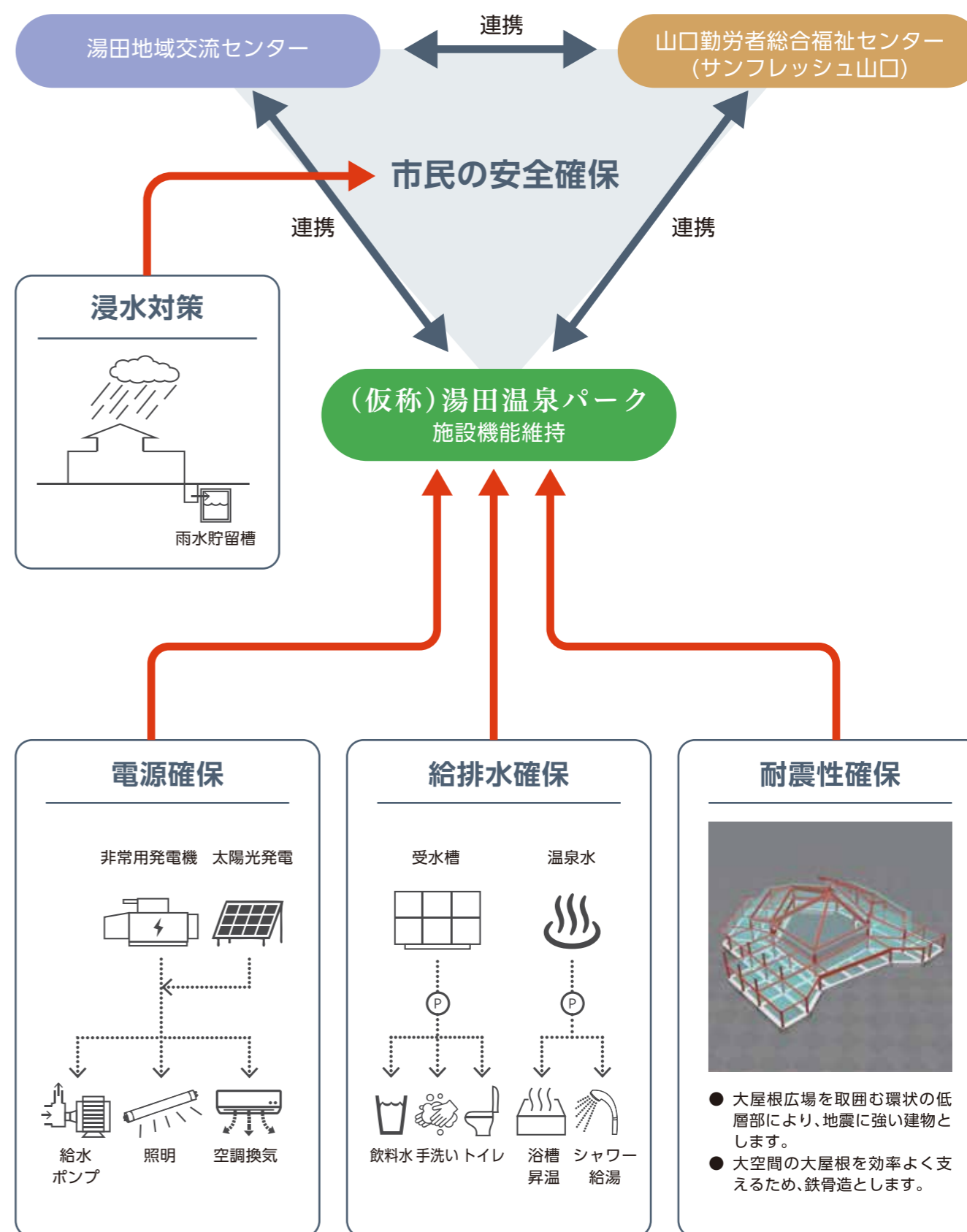
- 停電・断水時には、施設内の受水槽を水源とし、給水ポンプの電源を非常用発電機にてバックアップすることで、トイレ・手洗等の給水機能を維持します。
- 大地震による下水本管の故障に備え、貯留型のマンホールトイレを設置します。
- 施設の特性を生かし、断水時においても、継続した温泉(風呂)の利用が可能となるよう配慮します。
- 地震等によりガス供給や給水が停止した場合でも、源泉汲みあげ・温泉循環の機能が継続していれば、温泉熱利用によって温浴設備(浴槽昇温、シャワー給湯)が継続利用可能な計画とします。

4. 耐震性確保

- 耐震構造(重要度係数1.25)を採用することにより、地震時に対する安全安心の確保に配慮した構造計画とします。
- 構造体以外の二次部材や設備機器の耐震性の確保、家具等の転倒防止対策など安全性と経済性を配慮した防災対策を図ります。
- 大屋根を有する本棟は、大空間の架構に適した鉄骨造とします。温浴棟は、水を扱うこと、小部屋が集積した建物であることから、鉄筋コンクリート造とします。

5. 浸水対策

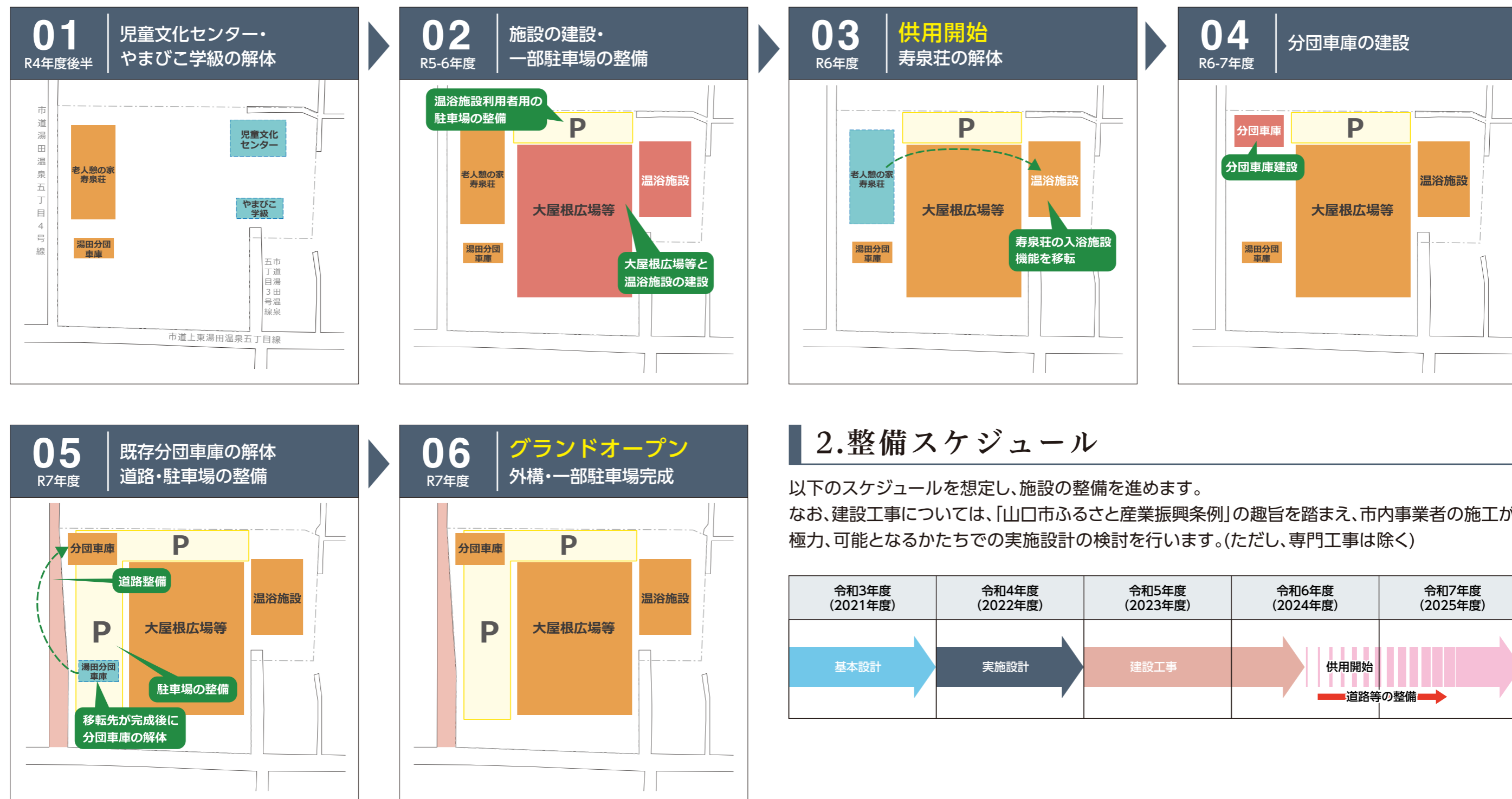
- 本施設整備と連携を図りながら、整備予定地に隣接する水路の改修等を行うとともに、新たに水路を設け、整備予定地周辺の雨水排水対策を強化します。
- 加えて、整備予定地内の地下に雨水貯留槽を設置し、湯田地域における雨水貯留機能を高めます。



1. 工程計画

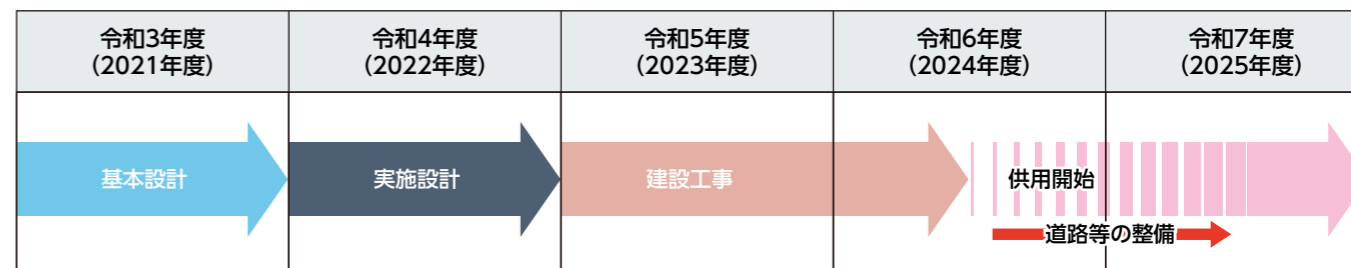
敷地内には既存施設があり、温浴機能や消防分団車庫の機能は継続的に使用できるようにするため、段階的な解体・建設を計画的に行う必要があります。

■ 新築 ■ 運用中 ■ 既存解体



2. 整備スケジュール

以下のスケジュールを想定し、施設の整備を進めます。
 なお、建設工事については、「山口市ふるさと産業振興条例」の趣旨を踏まえ、市内事業者の施工が、極力、可能となるかたちでの実施設計の検討を行います。(ただし、専門工事は除く)



3. 概算事業費

基本設計における、本施設整備の概算事業費は、次のとおりです。なお、今後、実施設計において詳細な検討を進め、事業費を精査します。

建設費等として、約28.9億円を見込んでいます。

(1) 建設費等

① 概算	
工事費(解体費含む)	約 23.7 億円
用地取得費	約 2.6 億円
設計監理費等	約 2.6 億円
合計	約 28.9 億円

② 想定財源	
都市構造再編集支援事業費補助金、公共事業等債など	約 26.7 億円
一般財源	約 2.2 億円

本施設整備に当たっては、財源として、主に国の都市構造再編集支援事業費補助金(補助率50%)、公共事業等債(充当率90%)などを活用することとしており、こうした財源の活用により、一般財源としては約2.2億円を見込んでいます。今後も、財源について検討を行い、より有利な財源を活用します。

(参考) 建設費等の比較

項目	基本構想	基本計画	基本設計
工事費		約 17 億円	約 23.7 億円
用地取得費	約 30 億円	約 2.5 億円	約 2.6 億円
設計監理費等		約 2.5 億円	約 2.6 億円
合計	約 30 億円	約 22 億円	約 28.9 億円
国費	—	約 10 億円	約 14 億円
市債	—	約 9.5 億円	約 12.7 億円
一般財源	—	約 2.5 億円	約 2.2 億円

設備費として、約5億円を見込んでいます。

(2) 設備費

① 概算	
項目	金額
スマートシティの推進、デジタル化への対応	約 2.2 億円
大屋根広場の活用に必要な設備	約 2.0 億円
子どもを始めとしたあらゆる市民の利用を促す設備	約 0.8 億円
合計	約 5.0 億円
国費	約 0.7 億円
市債	約 3.3 億円
一般財源	約 1.0 億円

② 想定財源	
地域脱炭素移行・再エネ推進交付金、一般補助施設整備等事業債*など	約 4 億円
一般財源	約 1 億円

設備の導入に当たっては、現時点での想定財源として、地域脱炭素移行・再エネ推進交付金(補助率50%)、一般補助施設整備等事業債(充当率90%)などを活用することとしており、こうした財源の活用により、一般財源としては約1.0億円を見込んでいます。今後も、財源について検討を行い、より有利な財源を活用します。

(※) 交付金等は現時点での想定です。今後、詳細な検討を進める中で、変更になる場合もあります。

(3) 基本設計における本施設の構造や設備の検討

基本計画では、市民ワークショップを通じていただいた市民の皆様の御意見や関係団体の皆様の御意見等を踏まえ、本施設へ導入する機能と機能配置を整理しました。基本設計においては、基本計画における整理を踏まえ、湯田地域を始めとした市民の皆様の御要望や関係団体の皆様との意見交換、専門会議における御助言などを反映させ、幅広い事業展開が可能となるよう、本施設の構造や設備の検討を行っています。

① 建設費等

ア 本施設の構造検討

大屋根広場については、基本計画では、テント地の簡易な屋根付き広場を想定していましたが、基本設計では、重量鉄骨構造の屋根付きの全天候型の広場としました。こうした構造変更をすることで、雨や風、暑さ・寒さなどに影響されず、より耐震性等が確保された広い半屋内空間として大屋根広場を利用することができ、天候等を気にすることなく、子どもなどの遊びや憩いの場としての活用や、地域イベント、アフターコンベンションの開催が可能となり、避難所としての活用も可能となります。また、大屋根広場を取り囲む屋根をデッキ構造とすることで、子どもなどの遊びや憩いの空間の更なる確保などを図りました。

イ 資材費の価格上昇

鋼材の原料等の高騰による鋼材価格の上昇や木材価格の上昇など、資材費価格の上昇も踏まえ、事業費の積算を行っています。

ウ その他

解体費は、関係法令に準じた適切な処理方法を踏まえ、事業費の積算を行っています。

② 設備費

設備費については、スマートシティの推進、デジタル化への対応や大屋根広場の活用に必要な設備、市民利用を促す設備について、検討を行っています。

ア スマートシティの推進、デジタル化への対応

- 温泉熱利用などの再生可能エネルギー活用設備
- イベント活用と共に避難誘導機能や、地域情報の発信が可能な大型ディスプレイの導入
- 施設利用者の利便性の向上につながるスマートロック、EVカーの充電設備や駐車場管理システムの導入など

イ 大屋根広場の活用に必要な設備

猛暑・寒さ対策、強風対策、防音等が可能となる可動壁の設置や、大屋根広場の空調設置

ウ 子どもを始めとしたあらゆる市民の利用を促す設備

未就学児を含む子どもが遊べる遊具の設置や子どもや大人の憩いの場となる噴水の設置、現在普及しているなかでも高水準のバリアフリー設備の導入など